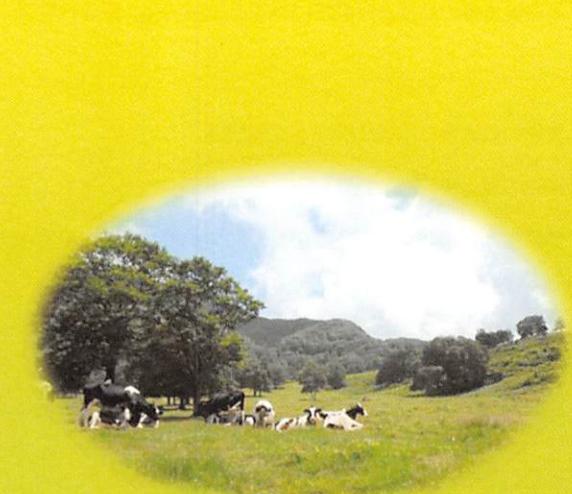


長野県農業関係試験場 要 覧

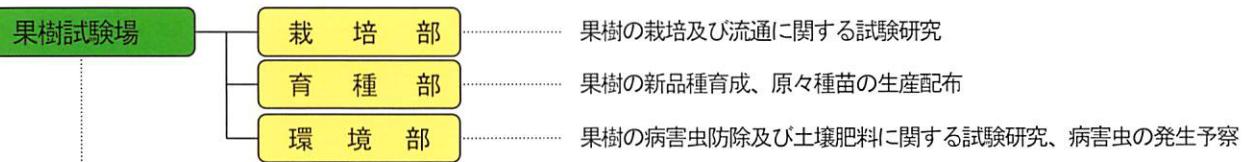


写真は「ふるさと信州風景100選」より

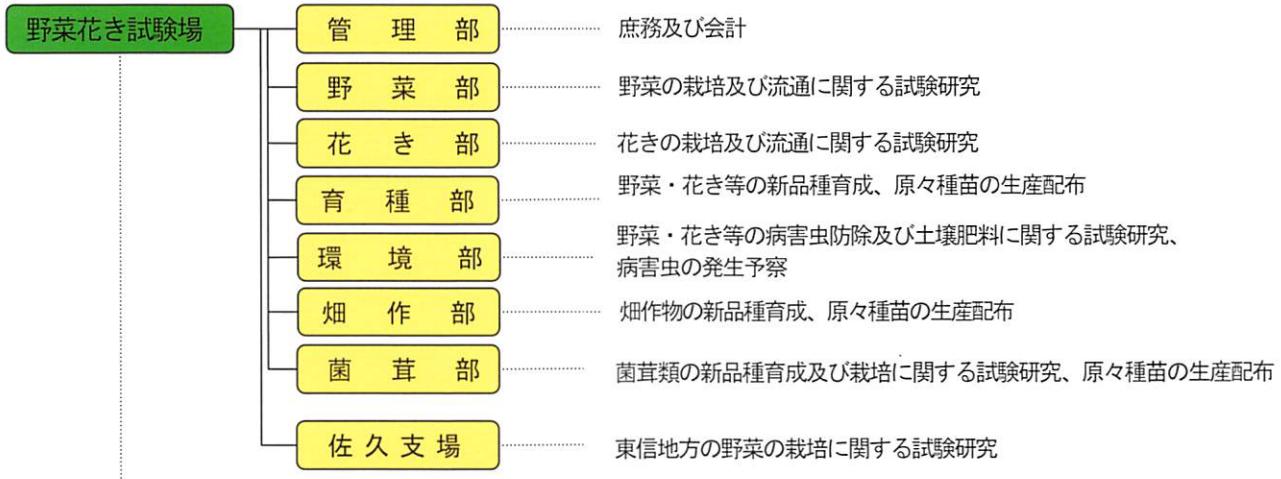
組織と主な業務

組織

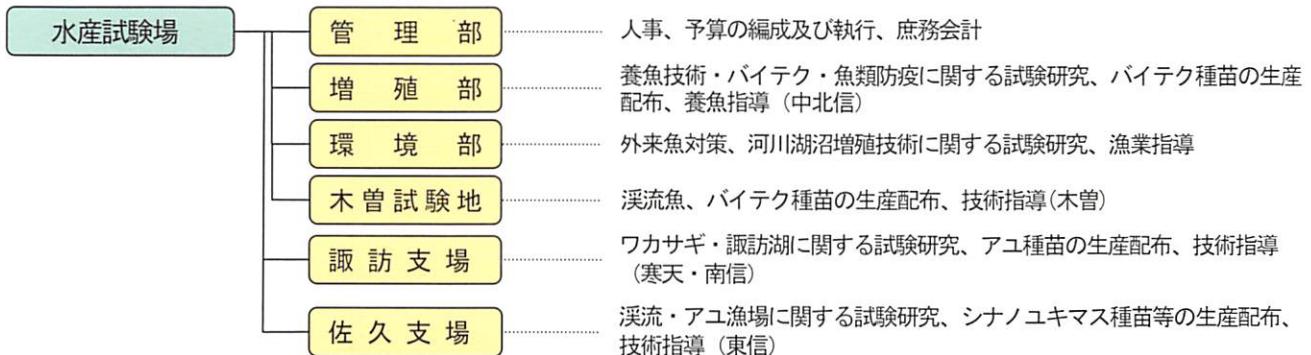
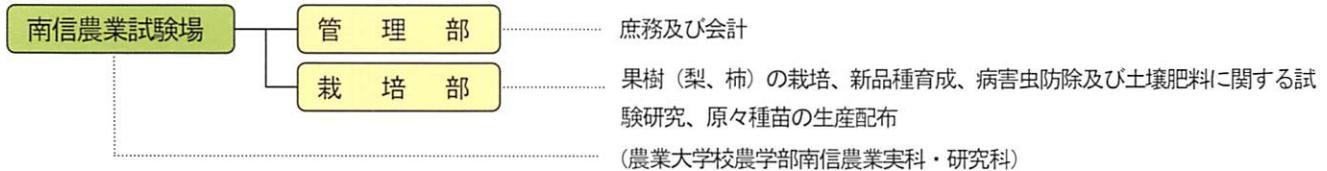
主な業務



(農業大学校農学部果樹実科・研究科)



(農業大学校農学部野菜花き実科・研究科)



土 地 ・ 建 物

試験場	ほ場面積 ha	その他面積 ha	計 ha	建物面積 m ²
農業試験場				
小河原	0.6	4.0	4.6	10,198
八重森(作物部・育種部)	4.0	1.6	5.6	2,592
原村試験地	1.2	0.1	1.3	618
計	5.8	5.7	11.5	13,408
果樹試験場	9.0	0.4	9.4	(農業試と共に用)
野菜花き試験場				
塩尻	11.0	2.7	13.7	11,965
松代(菌草部)	0	0	0	566
佐久支場	3.8	4.9	8.7	1,765
計	14.8	7.6	22.4	14,207
畜産試験場	27.3	13.5	40.8	20,207
南信農業試験場	5.3	1.9	7.2	5,208
水産試験場	(池面積) 0.95	2.8	3.7	2,357
木曾試験地	0.10	0.9	1.0	559
諏訪支場	0.16	0.9	1.0	2,667
佐久支場	0.23	0.9	1.2	922
計	1.44	5.5	6.9	6,505
合計	63.64	34.6	98.2	59,535

試験研究の推進方向と推進組織

1 試験研究の背景

長野県は南北に長く、平均気温や降水量、日照時間が地域により大きく異なり、変化に富んだ気象条件を有しています。

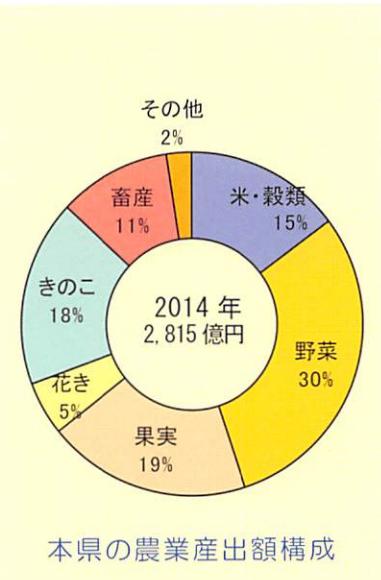
農耕地は、標高 260m から 1,500m に位置し、年較差や日較差が大きい内陸型の気候を生かして、野菜、果樹、花き、きのこ等の園芸作物を中心に様々な農畜産物が生産され、全国有数の農業県となっています。

しかし、農業者の高齢化による農業構造の変化や、農業生産資材価格の高止まり、消費者の安心・安全志向の高まり、食形態の変化や消費者志向の多様化、さらには温暖化の進行、社会の IT 化やグローバル経済の進展など農業・農村を取り巻く情勢は大きく変化しています。このため、これらの多様化する課題に的確に対応した、新品種の育成、新技術の開発が試験研究に求められています。

2 試験研究の推進方向

農業を取り巻く情勢の変化に的確に対応し、本県の食と農業・農村の振興に向け、将来の目指すべき姿を示すとともに、それを具体的に実現するため、平成 25 年 2 月に「第 2 期長野県食と農業農村振興計画」が策定されました。

この振興計画の目標達成に向け、農業関係試験場では、「長野県農業関係試験研究推進計画」を策定し、右の 4 つの展開方向に沿って、試験研究を進めています。



試験研究の展開方向

- I オリジナル品種の育成と知的財産の保護・活用
- II 低コスト・省力化・高位安定生産技術の開発
- III 環境にやさしい農業生産技術の開発
- IV 地球温暖化対策技術の開発

3 試験研究の推進体制

行政、普及、生産現場と密接に連携しながら組織的、効率的に試験研究を推進するとともに、研究成果の速やかな公表・普及を行うため、農業関係試験研究推進会議等を設置し、研究目標、試験研究課題、研究成果等について、定期的に協議を行っています。



農業試験場

<http://www.pref.nagano.lg.jp/nogyoshiken/>

農業試験場では、水稻、麦、大豆を対象として、高品質と生産性向上をめざした新品種の育成、省力・低コストをめざした効率的な栽培技術、水田の高度利用技術、環境にやさしい栽培・病害虫防除技術、気象変動に対応した対策技術等について試験研究を行っています。また、共通基盤部門として、農業経営管理技術の確立および農業情報システムの開発、知的財産の適正管理と活用手法の開発、農産物の安全性確保と環境にやさしい農業技術の開発等について研究をしています。

オリジナル品種の育成と知的財産の保護・活用



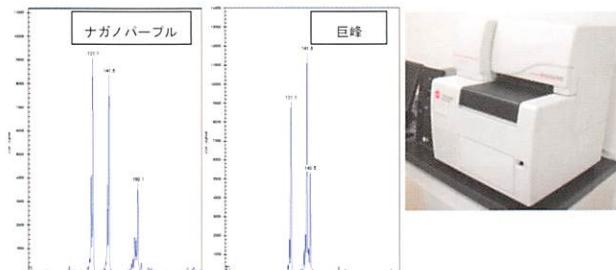
多収で高温障害が少ない水稻品種
「風さやか」



実需者・大学等と連携した麹製造適性に着目した酒造好適米の育成（多分野連携研究）



精麦適性に優れ、機能性成分 β グルカンを多く含む
糯性大麦品種「東山皮糯 109 号」



DNAの遺伝子解析グラフ

遺伝子解析によるオリジナル品種の識別法の開発

低コスト・省力化・高位安定生産技術の開発



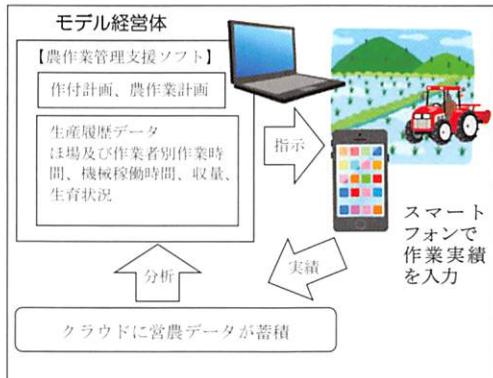
斑点米を軽減するための
アカヒゲホソミドリカスミカメ発生予察試験



ヤグルマギク(麦畑)
大豆・麦畑における難防除帰化雑草対策試験



稻の生育、イネいもち病、コムギ赤か
び病の感染を予測する栽培支援装置
「クロップナビ」



I C T を活用した効率的生産体系
の経営的効果の検証



高速耕うん同時畝立て播種機を用い
た麦および大豆の省力栽培技術



多分野連携による既存機を超える

長野県に適合した水田畦畔除草機の開発

- 収量を維持し、省力化が可能な水稻の直播栽培法
- 簡易水槽(プール)を用いた水稻の省力育苗法の開発
- 麦の省力施肥技術の確立(全量基肥)
- 飼料米栽培のための多収性品種「ふくおこし」の省力・低成本栽培技術
- ブームスプレーヤ用ドリフト低減ノズルの実証
- 玄米中カドミウムの吸収を抑制する田面足跡深利用技術
- マイナー作物の安定生産に必要な農薬登録拡大
- 施肥診断支援システム「Dr.大地」の開発

環境にやさしい農業生産技術の開発



採種のためのイネもみ枯細菌病防除の指針

- きのこ廃培地堆肥を用いたリン酸肥料代替技術
- 各種有機物を用いた米の品質向上施肥技術
- 家畜ふん堆肥の塩酸抽出による簡易成分分析法

地球温暖化対策技術の開発



正常粒 白未熟粒

水稻の白未熟粒発生軽減技術のための耐暑性検定

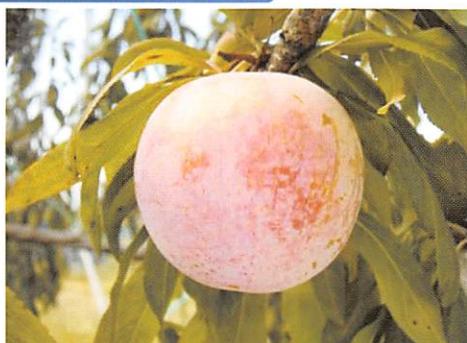
- 高温登熟性に優れる水稻品種育成

果樹試験場

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kajushiken/>

本県は恵まれた気象条件、立地条件を活かした全国屈指のくだもの生産地です。
果樹試験場では主要品目のりんご、ぶどう、ももをはじめ、あんず、ブルーイン等の特産果樹について、新品種の育成、低コスト・省力化・高位安定生産技術、環境にやさしい農業生産技術及び地球温暖化対策技術等の試験研究に取り組んでいます。

オリジナル品種の育成と知的財産の保護・活用



早生で着色が優れる「リンゴ長果25」

大玉で食味の良い「スモモ長果1」

着色が優れみつ入りの良い「シナノホッペ」

- りんご早生種「リンゴ長果25」、中生種「シナノスイート」、良食味で黄色の「シナノゴールド」、丸かじりりんご「シナノピッコロ」、「シナノプッチ」
- 皮ごと食べられるぶどう「ナガノパープル」、良食味のもも「なつっこ」、スイートネクタリン「スマーフクリスタル」
- ブルーイン「サマーキュート」(8月下旬成熟)、「オータムキュート」(9月下旬成熟)、大玉のすもも「スモモ長果1」(9月下旬成熟)

低コスト・省力化・高位安定生産技術の開発



高品質なワイン原料ぶどうが生産できる片側誘引
短梢せん定栽培

- 省力、安定生産を可能にするりんご新わい化栽培、ぶどう（無核栽培）の短梢平行整枝法等の栽培技術
- りんご、ぶどう、核果類の高品質安定生産技術と適期収穫技術
- 着果管理、新梢管理等の省力化のための植物成長調整剤の利用技術
- 高品質果実の長期供給のための鮮度保持技術
- マイナー果樹類の防除技術
- 細菌性病害やハダニなど主要病害虫の防除技術



天敵を利用したりんごのハダニ類防除試験



葉柄汁液中の硝酸イオン測定による
「ナガノパープル」の簡易栄養診断

- 効率的防除に向けた果樹病害虫の発生予察技術
- 交信かく乱剤を利用したりんご等の減農薬防除技術
- 温水を利用した白紋羽病防除技術
- 土壤中の養分量を考慮した施肥管理技術

地球温暖化対策技術の開発

- 果樹生産に及ぼす地球温暖化の影響評価
- りんごの果実日焼け軽減技術
- りんご、ももの樹体凍害軽減技術
- 地球温暖化に対応した品種育成
- 地球温暖化に対応した病害虫防除技術及び施肥技術



温暖化再現施設を利用した温暖化影響評価試験

南信農業試験場

<http://www.pref.nagano.lg.jp/nannoshiken/>

南信地域は、気象や地形の変化に富み多くの種類の作物が栽培されています。こうした地域特性を活かし、果樹を中心に ①ブランドづくり ②人や環境にやさしく ③生産の安定化、を試験研究の視点に関係機関・団体、生産現場と連携して新たな品種や技術の開発に取り組んでいます。

オリジナル品種の育成と知的財産の保護・活用



黒星病に強い早生の甘い
日本なし「サザンスイート」

環境にやさしい農業生産技術の開発



温水点滴処理による
ナシ白紋羽病の防除



圧縮空気噴射器による土壤物理性の改善

- ナシマダラメイガ、ナシヒメシンクイの効率的防除技術
- カキ円星落葉病の効率的防除技術
- 局所施肥によるなし園・かき園の効率的施肥技術

低コスト・省力化・高位安定生産技術の開発



日本なし「南水」の
樹体ジョイント仕立てによる省力栽培



樹体ジョイント仕立てに適する
苗木の早期育成法試験



「市田柿」適期収穫のための
果皮色判定装置の開発

地球温暖化対策技術の開発

- 地球温暖化が日本なしおよび市田柿栽培に及ぼす影響評価と対策技術
- 日本なし障害果実の発生原因の究明
- 甘かき品種適応性検定試験

野菜花き試験場 佐久支場

<http://www.pref.nagano.lg.jp/yasaikaki/>

<http://www.pref.nagano.lg.jp/yasaikaki-saku/>

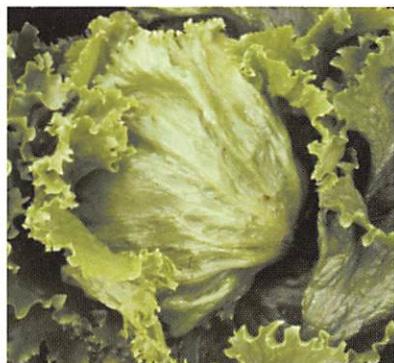
本県の野菜・花き・きのこは、恵まれた気象条件と立地条件を活かした全国有数の産地として発展してきました。野菜花き試験場では、安定生産と競争力の強化に即応できる、本県オリジナルの品質が高く病気に強い新品種の育成と新品目の開発や、低成本・省力・軽作業生産技術、高品質・安定生産技術、環境にやさしい栽培技術、地球温暖化に対応できる技術の研究・開発を行っています。

また、大豆、そばの高品質安定生産を目指した新品種の育成に取り組んでいます。

オリジナル品種の育成と知的財産の保護・活用



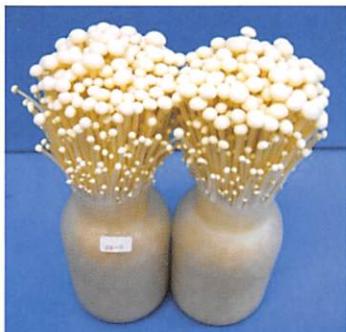
レタス根腐病耐病性品種
レタス「長・野 50 号」



晚抽性で9月収穫に適した
レタス「シナノホープ」



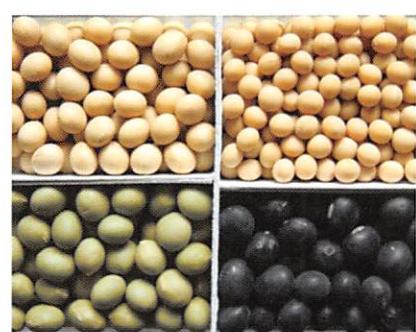
四季成り性いちご「サマープリンセス」



高温培養適性に優れる
エノキタケ「シナノアーリー」



丸抜き(左)とそば切り(右)の緑色が濃い
「長野 S8 号 (信州ひすいそば)」



特色ある大豆品種

左上: 高蛋白質大豆「すずほまれ」

右上: 納豆用大豆「すずろまん」

左下: 青大豆「あやみどり」

右下: 黒大豆「華大黒」

その他の主な育成品種

- 根腐病に対して耐病性を有するレタス「シナノパワー」、「シナノオータム」、「シナノスター」
- 食味の良い夏秋どりキャベツ「SE」、「YRSE」
- 根こぶ病抵抗性でアントシアニンが少なく色の良い野沢菜「ニューシナノ」
- 収量性の高いジュース用トマト「らくゆたか」、「なつのしゅん」
- 機能性成分を多く含むケール「ハイパール」
- 辛味がひきたつ、おろし用ダイコン「戸隠おろし」、「からねずみ」
- 抑制栽培向けトルコギキョウ「長花交 34 号」、「長花交 35 号」、「長花交 36 号」、「長花交 37 号」
- 花色が純白なリンドウ「長花交 33 号」
- 形状に優れるバイリング「シナノ淡雪」
- 倒伏しにくく、栽培適性に優れるそば「タチアカネ」
- 極大粒で、みそや煮豆に向く「つぶほまれ」

低コスト・省力化・高位安定生産技術の開発



アスパラガスの簡易雨よけ栽培



トマトの不織布製鉢を利用した養液栽培



カラーピーマンの
2本仕立て多収栽培



アルストロメリアの CO₂ 施用栽培



トルコギキョウの品質保持処理(右)



ブナシメジの高生産性培地

- アスパラガスの減収要因の解明とその対策技術
- 不織布製鉢を利用した夏秋どりトマトの養液栽培技術
- カラーピーマンの2本仕立てによる多収栽培技術
- トルコギキョウの晚秋作型における開花促進技術
- CO₂ 施用による低温期栽培でのアルストロメリアの増収技術
- 切り花の品質保持向上技術
- 変温管理による施設花き栽培の暖房用燃料費削減技術
- エノキタケ、ブナシメジの低コスト・高生産性培地
- きのこ重要害虫キノコバエの発生生態の解明
- アスパラガスの露地長期どり栽培での立莖前の全量一回施肥技術



越冬ライムギのすき込みによる減肥栽培



L E D 防蛾器レビガード



UV-B 照射によるパセリ－病害防除

環境にやさしい農業生産技術の開発

- 全面マルチ用うね内部分施肥による葉菜類の減肥技術
- 全面マルチほ場での植生帯設置による土壤流出防止技術
- 越冬ライムギのすき込みによるレタスの窒素減肥栽培技術
- レビガードを用いた花き類の総合的害虫防除技術
- 温湯種子消毒によるセルリーの種子伝染性病害防除技術
- アブラナ科野菜黒斑細菌病の総合防除技術
- 紫外線 (UV-B) 照射によるパセリ－うどんこ病の発生抑制技術

地球温暖化対策技術の開発

- 晚抽性レタスの育成と盛夏期の高温対策、温暖化に伴う異常気象 対策技術
- 遮光資材等を活用したセルリーの安定生産技術
- 盛夏期のトマト施設栽培における高温対策用被覆資材の利用技術
- 盛夏期栽培に適するブロッコリー品種と特性

畜産試験場

<http://www.pref.nagano.lg.jp/chikusanshiken/>

畜産試験場では、畜産経営の健全な発展と、安心・安全な付加価値の高い畜産物の生産のため、高品質畜産物生産技術や低成本生産技術の開発、家畜・飼料作物の育種改良と増殖、さらには温暖化に対応した飼養管理技術の開発に取り組んでいます

オリジナル品種の育成と知的財産の保護・活用



県内の肉用牛子牛生産に活躍している
黒毛和種基幹種雄牛「栄寿」号



歯ごたえ・美味しさ・風味の3拍子が揃ったおいしい「信州黄金シャモ」



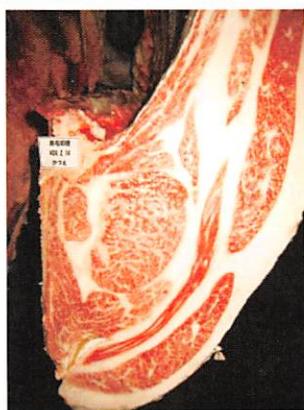
超多収スーダン型ソルガム「峰風」
(左が「峰風」、右は標準品種)

○遺伝的産肉能力に優れた黒毛和種種雄牛「栄寿」「悟空286」「穂里福」「丸山福」

○高消化性ソルガム「涼風」「華青葉」「峰風」

○耐倒伏性が高い飼料用とうもろこし中生品種「タカネフドウ」

低成本・省力化・高位安定生産技術の開発



子牛育成マニュアルで
育成した黒毛和種肥育
牛の枝肉（格付けA5）



豚精液の採精と高分子ゲル
を利用した精液輸送技術

○高泌乳・疾病低減のための泌乳曲線平準化飼養管理
試験

○黒毛和種の高増体育成とオレイン酸向上のための
飼養試験

○高能力種豚精液活用による繁殖能力と肉質の改善

○信州黄金シャモの呈味・機能性成分強化試験

○自給飼料多給による高泌乳牛飼養管理試験

○エコフィードを用いた発酵TMRによる肉用牛肥育
試験

○豚の一斉種付けを可能にする発情誘起試験

○鶏の雌雄別飼いによる発育向上試験

環境にやさしい農業生産技術の開発

○持続的資源循環のための
土壤養分の補正技術

○除草剤や化石エネルギー
の消費を低減する牧草・
飼料作物栽培技術



モーアコンディショナを活用した
省力的な収穫調製技術



自給飼料を積極的に利用する
乳牛・肉用牛の飼養技術

地球温暖化対策技術の開発

○地球温暖化に対応した家畜の暑熱対策試験
○気候変動に対応した飼料作物の作付体系と病害対策試験

河川湖沼漁業、養殖業、そして寒天製造業で構成される本県の水産業は、豊かな水資源と恵まれた自然環境を背景に発展してきました。水辺環境に対する県民意識の高揚や価値観の多様化等により、遊漁を含む河川湖沼の利用が増加する中で、ブラックバス等の分布拡大や冷水病によるアユ不漁など漁場環境は大きく変化しています。養殖業では輸入水産物の増加や消費の低迷等の構造変化に対応した技術開発が求められています。このような状況から、資源管理技術や漁場環境保全技術の開発、バイオテクノロジーを用いた新品種の作出、魚類防疫対策等の試験研究に加え、技術指導や優良種苗の供給により安全・安心な水産物の生産を推進しています。



信州サーモン（ニジマス4倍体♀×ブラウントラウト♂）



信州大王イワナ（全雌イワナ三倍体）



ワカサギの耳石日周輪



小型電気ショッカーによる
魚類の生息状況調査

◎ 最近の主な研究成果

- 1 信州サーモン（全雌異質三倍体）の開発
- 2 信州サーモンの品種判別技術の開発
- 3 信州大王イワナ（全雌イワナ三倍体）の開発
- 4 諏訪湖におけるワカサギの資源管理技術の開発
- 5 ブラックバス、ブルーギルの駆除技術の開発
- 6 冷水病対策等、河川のアユ資源の管理技術の開発
- 7 溪流魚の増殖技術の開発
- 8 大型魚の放流による冬季ニジマス釣り場の創出
- 9 水田を利用した在来魚の増殖技術の開発
- 10 マス類、コイ等の魚病対策及び防疫技術の開発

現在取り組んでいる主な課題

農業試験場

- 水稻・麦・大豆部門
 - 1 雜草イネ及び難防除畠雜草の総合防除対策
 - 2 水稻・麦類オリジナル新品種の栽培技術の確立
 - 3 高温登熟性に優れた良食味水稻品種、酒造好適米の選抜技術の開発と品種育成
 - 4 高品質麺・パン用小麦及び新規需要に対応した大麦の品種育成
 - 5 気象変動が水稻に及ぼす影響評価と対応技術の開発
 - 6 低コスト水田営農体系化技術の確立
 - 7 大豆の多収阻害要因の解明
 - 8 イネいち病等の主要病害の効率的な防除技術の開発
 - 9 斑点米カメムシ等の主要害虫の効率的な防除技術の開発
 - 10 水稻の疎植栽培における施肥技術の検討
 - 11 多分野連携による水田畦畔除草管理機の開発
- 共通基盤部門
 - 1 農業経営管理技術の確立及び農業情報システムの開発
 - 2 温室効果ガス（土壤炭素）の土壤貯留実態調査
 - 3 水管理によるカドミウム等の低減を可能にする栽培管理技術の開発
 - 4 マイナー作物における農薬登録拡大のための作物残留試験
 - 5 農薬の環境動態に関する調査

果樹試験場

- 1 「リンゴ長果25」の高品質安定生産技術の開発
- 2 「スマモ長果1」の高品質安定生産技術の開発
- 3 皮ごと食べられる赤色大粒ぶどうの育成
- 4 M.9台木とフェザーモノの生産効率の向上技術の確立
- 5 プレーン「オータムキュート」の高品質生産技術の開発
- 6 ぶどう「シャインマスカット」等の貯蔵管理技術の開発
- 7 「粒ブドウ」出荷を実現する省力生産及び貯蔵技術の確立
- 8 生物多様性を活用した安定的防除技術の開発
- 9 輸出に対応した防除技術の開発
- 10 難防除病害・特異発生害虫等の防除技術の開発
- 11 果樹園の土壤管理技術の開発
- 12 気候温暖化を想定したりんご生産の実態解明及びりんご園における地力窒素への影響評価
- 13 りんご果実への日焼け発生限界温度の解明
- 14 多分野連携による、ぶどう施設栽培における太陽光発電の活用技術の開発

野菜花き試験場

- 1 レタス・セルリー・ジュース用トマト等の耐病性等新品種育成
- 2 ブナシメジ等の収益性が高い新品種の育成
- 3 湿害や病害に強い大豆新品種の育成
- 4 耐倒伏性の高品質そば新品種育成と二期作多収栽培技術の開発
- 5 アスパラガスの凍害・プロッコリーの障害の回避技術の開発
- 6 花きの出荷時期を抑制できる栽培技術の開発
- 7 花きの鮮度保持技術による品質管理技術の開発
- 8 きのこ栽培の低成本化に向けたLED利用技術の開発
- 9 キノコバエの発生予察と防除技術の開発
- 10 土壌の物理性改善に基づく湿害回避技術の開発
- 11 アスパラガス病害の総合防除技術の開発
- 12 ピーマン等施設野菜害虫に対する天敵利用防除体系の開発
- 13 温暖化に対応したレタス高品質栽培技術の開発
- 14 多分野連携によるレタス栽培の大規模化に貢献できる収穫機及び効率の良い農業用バイオマスボイラーの開発

畜産試験場

- 1 高泌乳牛における高消化性稻WCS給与技術の確立
- 2 ルーメンアシドーシスを防止する飼養管理技術の開発
- 3 牛肉中オレイン酸割合を高める肥育技術の開発
- 4 自給飼料を活用した高品質豚肉生産技術の確立
- 5 「信州黄金シャモ」のおいしさ増強技術の開発
- 6 アントシアニン高含有トウモロコシの給与による家畜の抗酸化力向上・生産性向上技術の開発
- 7 紫斑点病抵抗性を持つ高消化性ソルゴー型及びスードン型ソルガム新品種の開発
- 8 茎葉型専用品種を用いた稻WCSの生産技術の確立

南信農業試験場

- 1 日本なしの新品種育成及び新品種の栽培技術確立
- 2 地域特産果樹「市田柿」の生産安定技術の確立
- 3 日本なしの樹体ジョイント仕立てによる果樹の省力、低成本栽培システムの開発
- 4 果樹病害虫の発生生態の解明と効率的防除技術の開発
- 5 なし、かき病害虫の環境にやさしい防除技術の開発
- 6 なし樹園地の環境保全型土壤及び施肥管理技術の開発
- 7 「市田柿」原料かきを主体としたかき園に対する効率的施肥法の確立

水産試験場

- 1 河川におけるコクチバスの駆除技術の確立
- 2 溪流魚の生息環境改善手法開発
- 3 諏訪湖のヒシ抑制手法の開発
- 4 諏訪湖のシジミ生息環境改善手法の開発
- 5 河川におけるアユ疾病防除技術の開発
- 6 信州サーモン、信州大王イワナの品質管理技術の開発

- 7 バイテク技術を活用した新たな養殖用品種の開発
- 8 ワカサギ等の資源管理技術の確立
- 9 魚病対策技術開発及び防疫技術の開発
- 10 漁協、養殖業者、寒天製造業者への技術指導
- 11 バイテク魚、放流アユ等の種苗供給

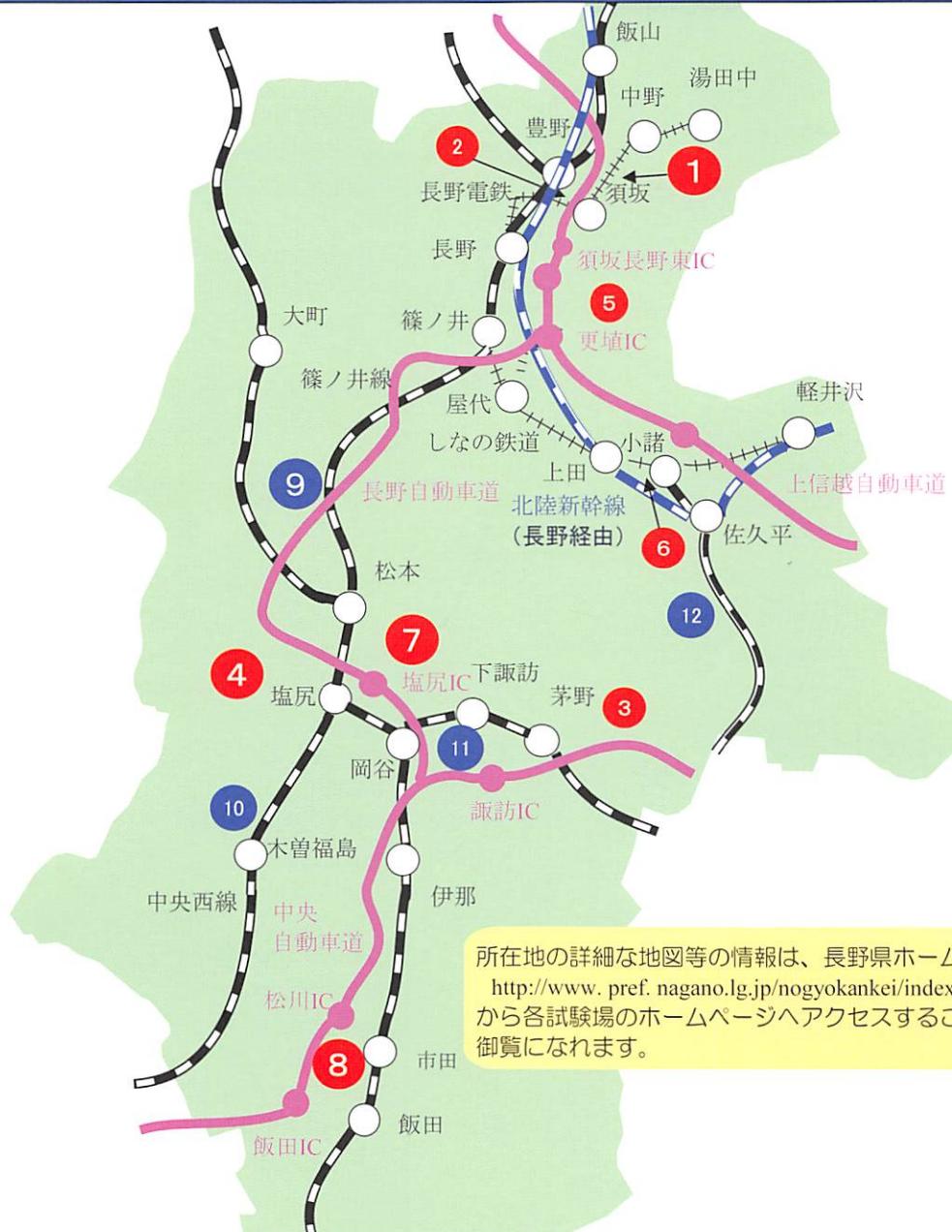
沿革

農業試験場		野菜花き試験場	畜産試験場
明治 30 年	長野県立農事試験場を上水内郡芹田村字若里に設置	昭和 51 年	園芸試験場の野菜花き、特用作物及び菌草部門を組織替えし、農業総合試験場野菜花き試験場として長野市松代町大室に設置
大正 10 年	長野市中御所に移転、果樹試験地を長野市箱清水に設置	昭和 55 年	野菜花き試験場と改称
大正 15 年	下伊那分場を下伊那郡市田村に設置	平成元年	育種部を設置
昭和元年	稻穀(仔)病試験地を南安曇郡豊科町に設置(昭和 41 年廃止)	平成 9 年	環境部を改組し病害虫部、土壤肥料部を設置
昭和 10 年	冷害試験地を諏訪郡原村(現、原村試験地)に設置	平成 14 年	病害虫部と土壤肥料部を病害虫土壤肥料部に統合、営農技術センター研究部を移管し佐久支場を設置
昭和 12 年	桔梗ヶ原試験地を東筑摩郡広丘村に設置	平成 21 年	中信農業試験場と統合し塩尻市宗賀へ移転 長野市松代町大室に野菜花き試験場北信支場を設置し育種部、花き部、菌草部を存置
昭和 16 年	飯山雪害試験地(昭和 46 年飯山積雪試験地と改称、平成 4 年廃止)を下水内郡飯山町の蚕業試験場飯山雪害試験地に併設	平成 22 年	病害虫土壤肥料部を環境部と改称 花き部を塩尻市宗賀へ移転
昭和 22 年	園芸分場を上高井郡須坂町に設置	平成 23 年	育種部を塩尻市宗賀へ移転 畑作育種部を畑作部と改称 北信支場を廃止
昭和 25 年	園芸分場の設置に伴い、長野市箱清水の蔬菜試験地を廃止、果樹試験地を果樹母樹園に改称		
昭和 26 年	農事試験場を農業試験場と改称、農林省長野農事改良実験所及び北御牧薬用人參試験地が県に移管		
昭和 36 年	東部畑作試験地を設置(昭和 51 年に果樹試へ移管)		
昭和 38 年	北御牧人參試験地を北御牧特用作物試験地と改称		
昭和 51 年	農業総合試験場農事試験場と改称し須坂市へ移転		
昭和 55 年	農事試験場と改称		
平成元年	育種部を設置		
平成 14 年	病害虫部と土壤肥料部を病害虫土壤肥料部に統合		
平成 21 年	農業総合試験場と統合し農業試験場と改称 病害虫土壤肥料部と農業総合試験場環境保全部を統合し環境部と改称、知的財産管理部を設置		

果樹試験場		南信農業試験場	
明治 43 年	農事試験場に果樹部を設置(明治 44 年果樹蔬菜部と改称)	大正 15 年	農事試験場下伊那分場として下伊那郡市田村に設置
昭和 22 年	農事試験場園芸分場として上高井郡須坂町に設置	昭和 6 年	陸稲試験地(清東)を設置
昭和 32 年	長野市箱清水の果樹母樹園廃止	昭和 10 年	園芸部門を拡充
昭和 34 年	園芸試験場に組織替え	昭和 25 年	畜産部門を拡充(昭和 39 年に畜試に統合)
昭和 39 年	北御牧特用作物試験地を農業試験場から移管	昭和 50 年	本館、付属棟を下伊那郡高森町下市田(角田原)に移転設置
昭和 51 年	農業総合試験場果樹試験場と改称、東部畑作試験地を農事試験場から移管し東部試験地と改称(平成 4 年廃止)	昭和 51 年	農業総合試験場南信地方試験場と改称
昭和 55 年	果樹試験場と改称	昭和 55 年	南信農業試験場と改称
平成元年	育種部を設置	平成 9 年	蚕業センターの廃止に伴い養蚕部、繭糸検定部を設置
平成 9 年	土壤肥料部を設置	平成 10 年	繭糸検定部を廃止
平成 14 年	病害虫部と土壤肥料部を病害虫土壤肥料部に統合	平成 14 年	養蚕部と環境部を統合し病害虫土壤肥料部と改称
平成 21 年	病害虫土壤肥料部を環境部と改称	平成 21 年	栽培部へ病害虫土壤肥料部を統合

水産試験場		農業総合試験場	蚕業センター
大正 15 年	犀川ふ化場として東筑摩郡中川手村に設置		
昭和 3 年	明科魚類増殖場と改称		
昭和 11 年	養魚池及び庁舎・付属建物を現在地に設置		
昭和 12 年	木曽川ふ化場を木曾福島町川上に設置		
昭和 13 年	明科魚類増殖場を長野県水産指導所と改称		
昭和 15 年	水産試験場を下諏訪町下の原に設置		
昭和 19 年	水産試験場南佐久採苗場を南佐久郡野沢町跡部に設置		
昭和 20 年	水産指導所を明科水産指導所、水産試験場を諏訪水産指導所、水産試験場南佐久採苗場を諏訪水産指導所佐久ふ化場と改称		
昭和 22 年	水産指導所、同諏訪支所、同佐久支所、同木曽川ふ化場と改称		
昭和 36 年	寒天検査研究所を茅野市宮川に設置（平成 4 年に諏訪支場に統合）		
昭和 45 年	水産指導所佐久支所を佐久市高柳に移転		
昭和 56 年	水産試験場、同諏訪支場、同佐久支場、同木曽川ふ化場と改称。本場に魚病指導総合センターを付置		
昭和 60 年	木曽川ふ化場を木曽試験地と改称		
昭和 63 年	木曽試験地を木曾福島町新開に移転		
農業総合試験場		蚕業センター	
昭和 51 年	機構改革により須坂市に設置（昭和 51～54 年度の間は全ての試験場名の上に農業総合試験場を付して呼称）	大正元年	上田、松本に原蚕種製造所を設置
昭和 59 年	研究部にバイオテクノロジー研究室を設置	大正 8 年	飯田に原蚕種製造所を設置
平成元年	室制を廃止し部制に移行、農業経営室と機械施設室を統合し経営機械部と改称	大正 11 年	蚕業試験場を長野市岡田に設置
平成 9 年	経営機械部、情報普及部を改組し、農業機械部、経営情報部を設置	大正 12 年	各原蚕種製造所を蚕業試験場上田、松本、飯田支場として組織替え
平成 14 年	保鮮流通部の業務を果樹試と野菜花き試に移管し廃止、農業機械部を機械施設部に改称	昭和 4 年	桑樹雪害試験地を下水内郡飯山町に設置（昭和 16 年農事試験地を併設）
平成 21 年	農事試験場と統合、これにあわせ機械施設部及びバイオテクノロジー部の業務を各試験場に移管し廃止、企画調整部と経営情報部を統合し企画経営部と改称、環境保全部と農事試験場病害虫土壤肥料部を統合し環境部と改称、知的財産管理部を設置	昭和 13 年	戸倉、池田支場を設置
中信農業試験場		昭和 21 年	池田支場廃止
昭和 12 年	農事試験場桔梗ヶ原試験地として東筑摩郡広丘村に設置	昭和 33 年	戸倉支場廃止
昭和 22 年	農林省長野農事改良実験所桔梗ヶ原試験地として国へ移管	昭和 43 年	上田支場を廃止し本場を統合、蚕業試験場を長野市から上田市塩尻に移転
昭和 26 年	再び県の所管となり農業試験場に所属替え	昭和 46 年	飯山雪害試験地を廃止
昭和 28 年	農業試験場桔梗ヶ原分場と改称	昭和 51 年	農業総合試験場蚕業試験場と改称
昭和 51 年	農業総合試験場中信地方試験場と改称	昭和 55 年	蚕業試験場と改称 昭和 56 年松本支場を松本市旭から同岡田町に移転
昭和 55 年	中信農業試験場と改称	昭和 60 年	蚕業試験場を上田市から松本市岡田町に移転し、松本支場を統合
昭和 59 年	塩尻市宗賀床尾に移転設置	平成 4 年	飯田支場を飯田市から高森町に移転し、南信支場と改称
平成 21 年	野菜花き試験場と統合	平成 7 年	蚕業試験場・繭検定所及び蚕業技術指導所を統合し、蚕業センターを設置
		平成 9 年	蚕業技術指導所を農業改良普及センターに統合 蚕業センターを廃止 南信農業試験場に養蚕部、繭糸検定部を設置 繭糸検定部は平成 10 年廃止、養蚕部は平成 14 年に病害虫土壤肥料部に統合

農業関係試験場の所在地



① 農業試験場	〒382-0072	須坂市小河原492	026-246-2411
② 作物部・育種部	〒382-0051	須坂市八重森下沖610	026-246-9783
③ 原村試験地	〒391-0100	諏訪郡原村向坂上3853-3	0266-79-2713
① 果樹試験場	〒382-0072	須坂市小河原492	026-246-2415
④ 野菜花き試験場	〒399-6461	塩尻市宗賀床尾1066-1	0263-52-1148
⑤ 菌草部	〒381-1211	長野市松代町大室2206	026-278-6848
⑥ 佐久支場	〒384-0807	小諸市山浦4857-1	0267-25-3080
⑦ 畜産試験場	〒399-0711	塩尻市片丘10931-1	0263-52-1188
⑧ 南信農業試験場	〒399-3103	下伊那郡高森町下市田2476	0265-35-2240
⑨ 水産試験場	〒399-7102	安曇野市明科町中川手2871	0263-62-2281
⑩ 木曾試験地	〒397-0002	木曾郡木曾町新開正ノ平127-238	0264-23-8571
⑪ 諏訪支場	〒393-0034	諏訪郡下諏訪町6188-10	0266-27-8755
⑫ 佐久支場	〒385-0042	佐久市高柳282	0267-62-0162



2016年3月発行

編集:長野県農業試験場企画経営部

E-mail nogyoshiken@pref.nagano.lg.jp

TEL:026-246-2412